

ニプロフィルターセット (ニプロキャリカポンプ用)

再使用禁止

【禁忌・禁止】

1. 使用方法
1) 再使用禁止

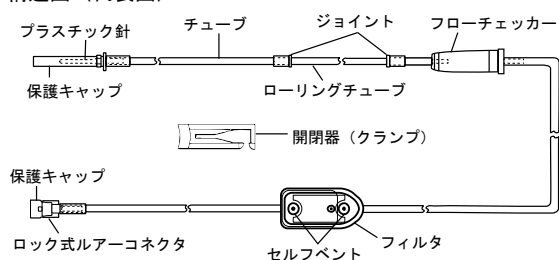
【形状・構造及び原理等】

1. 形状・構造

本品は、プラスチック針、チューブ、ジョイント、ローリングチューブ、フローチェッカー、フィルタ、ロック式ルアーコネクタ、開閉器（クランプ）等から構成されている。

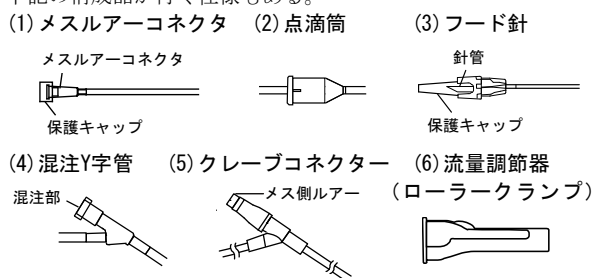
フィルタのポアサイズ（孔径）：0.2 μ m

1) 構造図（代表図）



2) その他の構成部品

下記の構成部品が付く仕様もある。



2. 材質

プラスチック針 ジョイント フローチェッカー	アクリロニトリル-ブタジエンスチレン共重合体
チューブ	ポリ塩化ビニル
ローリングチューブ	シリコンゴム
フィルタ	変性アクリル、ポリエテルスルホン、ポリテトラフルオロエチレン
ロック式ルアーコネクタ メスルアーコネクタ	ポリカーボネート
点滴筒	アクリロニトリル-ブタジエンスチレン共重合体、ポリプロピレン、ステンレス鋼
フード針	ステンレス鋼、ポリ塩化ビニル
混注Y字管	ポリカーボネート、イソブレンゴム
クレープコネクタ	ポリカーボネート、メチルメタクリレート-アクリロニトリル-ブタジエンスチレン共重合体、シリコンゴム

ポリ塩化ビニルの可塑剤はトリメリット酸トリ-2-エチルヘキシルである。

【使用目的又は効果】

注射筒を使用しないで、多量の注射用医薬品を注入する目的で使用する。輸液操作の利便性のため、必要な機器をあらかじめ接続して組合せたものもある。

【使用方法等】

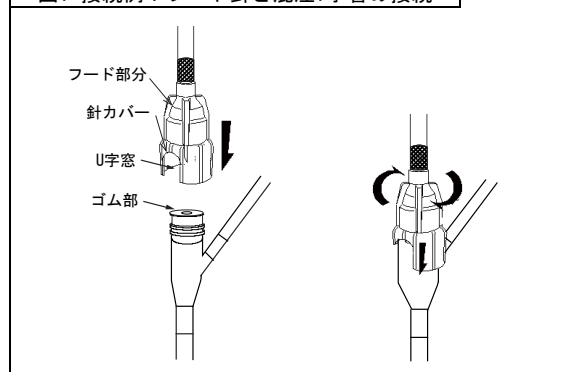
1. 使用方法

- 1) 包装を開封後、本品を取り出します。
- 2) プラスチック針と接合しているチューブを流量調節器（ローラークランプ）、又は開閉器（クランプ）で完全に閉じてから、プラスチック針の保護キャップを外します。
- 3) 輸液容器のゴム栓の○印中央部に真っ直ぐいっぱいの深さまでプラスチック針を刺通し、本品を接続します。
- 4) 本品を接続した輸液容器をスタンド等に吊るし、流量調節器（ローラークランプ）を徐々に緩めるか開閉器（クランプ）を取り外し、本品に薬液を満たし、プライミングを行います。ただし、フローチェッカー内には転倒しても流出しない空気が残ります。
- 5) 本品先端まで薬液が完全に満たされたことを確認した後、流量調節器（ローラークランプ）、又は開閉器（クランプ）でチューブを閉じて、併用する輸液ポンプの使用方法に従って、本品を輸液ポンプにセットします。
- 6) 流量調節器（ローラークランプ）及び開閉器（クランプ）を全開にし、輸液ポンプの注入量が正しく設定されていることを確認します。
- 7) 本品を輸液セット、カテーテル等と接続し、全ての流量調節器（ローラークランプ）及び開閉器（クランプ）が全開になっていることを確認したら、輸液ポンプを作動させ輸液を開始します。
- 8) 使用後は廃棄します。

2. フード針とロック付きゴムボタン式プラグ（混注Y字管、ニプロインジェクションプラグ）の接続方法

- 1) 針カバーのU字窓の向きを流路の向きに合わせ、フード針の針管をロック付きゴムボタン式プラグのゴム部の中心付近に真っ直ぐ刺通します（図1参照）。
- 2) フード部分（白い部分）を手で持ち、押しながら右に回し入れます。針カバー部分は回転せずに真っ直ぐ進み、フード針がプラグに接続されます（図1参照）。
- 3) フード部分（白い部分）の回転が完全に止まるところまで接続したことを確認します（図1参照）。

図1 接続例：フード針と混注Y字管の接続



3. 組み合わせて使用する医療機器

下表に記載の輸液ポンプは本品への適用が可能です。下表以外の輸液ポンプを使用する場合は輸液ポンプのメーカーに適用の可否を確認します。

表1 適用可能な輸液ポンプ

販売名	承認番号
ニプロキヤリカポンプ CP-330	21400BZZ00535000

<使用方法等に関連する使用上の注意>

1. 汚染を防ぐため、プラスチック針やロック式ルアーコネクタ等の接合部等の薬液に接触する部分には直接手を触れないでください。
2. チューブとロック式ルアーコネクタ等の接合部には過度に引っ張る、押し込む、折り曲げるような負荷をかけないように注意してください。〔チューブの抜け、破損、伸び等のおそれがあります。〕
3. チューブと硬質部材（プラスチック針等）との接合部付近で流量調節器（ローラークランプ）及び開閉器（クランプ）を操作しないでください。〔チューブが噛みこまれ、破損のおそれがあります。〕
4. 誤って手指等にプラスチック針やフード針の針管を刺さないよう取扱いは十分注意してください。
5. 輸液容器にプラスチック針を刺通する際、プラスチック針を斜めに刺通しないでください。〔液漏れやプラスチック針の破損のおそれがあります。〕
6. プラスチック針やフード針の針管をリキャップしないでください。〔リキャップ自体に誤穿刺のおそれがあり、また、誤って斜めにリキャップすることで、針先が保護キャップを貫通するおそれがあります。〕
- *7. フィルタは、自動プライミングなのでフィルタの出口側を上にししないでください。また、フィルタを垂直に保って薬液の通過を待ってください。（空気は自動的に抜けます。）プライミング中、フィルタを逆さまにししないでください。全ルートに薬液を満たし、フィルタ下流側のチューブ等の空気を完全に抜いてください。〔プライミング時に下流側から液を満たした場合、フィルタの出口側に空気が残るおそれがあります。〕
8. カテーテル等との接続の際には、無菌的管理を徹底してください。
9. 輸液ポンプを使用する際は、輸液ポンプは必ずローリングチューブに取り付けてください。〔送液不良や注入量の過剰投与のおそれがあります。〕
10. 輸液ポンプを使用する際は、48時間毎に新しい製品と交換してください。〔ローリングチューブが変形し、流量が不正確になるおそれがあります。〕
11. 吸着しやすい薬剤は、フィルタを通過することを確認の上、使用してください。
12. フード針の使用上の注意
 - 1) フード針の接続にはロック付きゴムボタン式プラグ（ニプロインジェクションプラグ等）を使用してください。
 - 2) フード針を斜めに刺通してロックすると、ゴム部の内部で針の向きが矯正され、針とゴムの間に隙間が生じ、接続部からの液漏れのおそれがあります。
 - 3) 透明のフード針カバーを持ってロックすると空回りするので注意してください。
13. その他構成品毎の使用上の注意
 - 1) 混注Y字管
 - (1) 混注Y字管から混注する場合は、針を使用し、針は垂直に刺通してください。また、持続注入する場合は、フード針を用いて外れないようにしっかり接続してください。
 - (2) ゴム部を消毒用エタノール等で消毒後、速やかに刺通してください。
 - (3) ゴム部には手を触れないでください。
 - (4) ゴム部が汚れた場合は、新しい製品に交換してください。
 - 2) クレープコネクター
 - (1) 針を用いての混注は行わないでください。〔内部が破損し、液漏れのおそれがあります。〕

- (2) メス側ルアーに保護キャップをはめないでください。〔メス側ルアー内のシリコンシールや導管を破損させて閉塞、液漏れ、汚染のおそれがあります。〕
- (3) メス側ルアーに挿入する際、抵抗を感じた場合は無理に押し込まないでください。〔無理に押し込むとメス側ルアー内のシリコンシールや導管を破損させて閉塞、液漏れや汚染のおそれがあります。〕
- (4) 持続注入する場合は、ロック式ルアーコネクタを用いて外れないようにしっかり接続してください。
- (5) ゴム部を消毒用エタノール等で消毒後、速やかに接続してください。

【使用上の注意】

1. 重要な基本的注意

- 1) 使用中は本品の破損、接合部の緩み及び液漏れ等について、定期的に確認すること。
- 2) 脂肪乳剤及び脂肪乳剤を含む医薬品、ヒマシ油等の油性成分、界面活性剤又はアルコール等の溶解補助剤などを含む医薬品を投与する場合及びアルコールを含む消毒剤を使用する場合は、コネクタのひび割れについて注意すること。〔薬液によりメスコネクタにひび割れが生じ、血液及び薬液漏れ、空気混入等の可能性がある。特に、全身麻酔剤、昇圧剤、抗悪性腫瘍剤及び免疫抑制剤等の投与では、必要な投与量が確保されず患者への重篤な影響が生じる可能性がある。なお、ライン交換時の締め直し、過度な締め付け及び増し締め等は、ひび割れの発生を助長する要因となる。〕
- 3) ひび割れが確認された場合は、直ちに新しい製品と交換すること。
- 4) フィルタ付きの品種の場合は、輸液中、定期的にフィルタの詰まりの発生に注意すること。詰まりが確認された場合は直ちに新しい製品と交換すること。〔薬剤の配合変化、析出物、血液等の逆流による詰まりのおそれがある。〕
- 5) 混注部から注射筒でワンショット注入を行う場合は、ゆっくり注入すること。なお、フィルタ下流側の混注部から注入する場合は、フィルタとフィルタ下流側の混注部の間を開閉器（クランプ）等で閉塞させて注入すること。〔輸液セット内が高圧になり、フィルタ破損、液漏れのおそれがある。〕
- 6) 輸液中、フィルタは患者の穿刺部よりも低い位置を保つこと。〔フィルタを高い位置に保持すると、セルフベントから空気が流入し、流入した空気の体積分の薬液が流出するおそれがある。その後フィルタを低い位置に下げると、セルフベントから空気が流出し、その体積分の患者血液がチューブ内に逆流するおそれがある。〕
- 7) 輸液を一時的に中断するなど、薬液を満たした状態で輸液を行わない場合は、フィルタ上流側と下流側を流量調節器（ローラークランプ）、開閉器（クランプ）、又は他の医療機器の開閉器（クランプ）等で閉じるように注意すること。〔フィルタ下流側が開放状態にあるとセルフベントから空気が流入し、流入した空気の体積分の薬液が流出するおそれがある。また、薬液流出後に、流出した体積分の空気、又は患者血液がチューブ内に逆流するおそれがある。〕
- 8) 混注部を消毒する際は、消毒剤にポビドンヨードを使用しないこと。〔混注部の着色及び膨潤のおそれがある。〕
- 9) チューブから混注しないこと。
- 10) フィルタのフィルタ面が着色した場合は、フィルタ詰まりのおそれがあるので、新しい製品と交換すること。
- 11) フィルタをアルコールが含まれる薬液等で消毒しないこと。〔セルフベントの疎水性が失われ、液漏れのおそれがある。〕
- 12) 200kPaを超える圧力条件で使用しないこと。〔液漏れ、破損のおそれがある。〕
- 13) チューブが変形した状態で使用しないこと。また、薬液を高圧で注入しないこと。
- 14) ロック式ルアーコネクタは、接続の際にロックがしっかりとしまっていることを確認すること。

- 15) コネクタ等の接続部品は、鉗子等の器具を用いた過度な締め付けを行わないこと。

2. 相互作用（他の医薬品・医療機器等との併用に関すること）

1) 併用注意（併用に注意すること）

- (1) 脂肪乳剤などのエマルジョン系の薬液はフィルタ上流側の混注部から注入しないこと。これらの薬液を投与する場合は、フィルタ下流側の混注部から行うこと。〔薬液がフィルタを通過しない。〕
- (2) 総合ビタミン剤等の界面活性剤が含まれた薬液を使用すると、セルフベントが親水化され、液漏れのおそれがあるので注意すること。
- (3) クレープコネクターに輸液セット、延長チューブ、注射筒等（以下「輸液セット等」という。）を接続する際、輸液セット等の先端形状によっては流液路が開通しない場合があるので、医薬品の注液状態を確認し、医薬品が注入できない場合は、別の製品に交換すること。特に、シリンジポンプ等による微量注入を行う場合には、注液状態を確実に確認する等、十分に注意すること。
- (4) クレープコネクターに、オス側ルアーの先端内径が1.55 mm未満、又は3.00mmを超えるものは使用しないこと。プレフィルドシリンジ製剤、1mLディスポーザブルシリンジ、ガラス製注射筒及び三方活栓等には本品との接続に不適合な場合がある。〔メス側ルアー内のシリコーンシールや導管を破損させて閉塞、液漏れや汚染のおそれがある。いずれも自社データに基づく。〕

3. 不具合・有害事象

1) その他の不具合

- | | |
|-----------|------------|
| (1) 本品の破損 | (2) 接続部の外れ |
| (3) 液漏れ | (4) 空気混入 |
| (5) 誤穿刺 | |

2) その他の有害事象

- | | |
|--------------|-----------|
| (1) 細菌による感染症 | (2) 指先の損傷 |
|--------------|-----------|

【保管方法及び有効期間等】

1. 保管方法

水ぬれに注意し、直射日光、高温多湿を避けて保管すること。

2. 有効期間

包装の使用期限を参照のこと。

有効期間：滅菌後3年〔自己認証（自社データ）による〕

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売（お問い合わせ先）

ニプロ株式会社

フリーダイヤル：0120-226-410

受付時間：9:00～17:15（土・日・祝日を除く）

製造

ニプロ医工株式会社



ニプロ株式会社